

清須市第3次総合計画策定に係る 市政推進委員アンケート調査結果

令和6年3月
清 須 市

目次

1	アンケート調査について	1
	(1) 調査の目的	1
	(2) 調査の実施概要	1
2	アンケート調査の結果	3
	(1) 居住地	3
	(2) 清須市の施策について	4
	観点1 市民が安全・安心に暮らすことができるまちづくり	4
	観点2 出産や子育てのしやすいまちづくり	6
	観点3 誰もが健康でいきいきとくらすまちづくり	7
	観点4 便利で快適に暮らすまちづくり	8
	観点5 魅力に満ちた活力のあるまちづくり	10
	観点6 文化活動やスポーツなどを通じて誰もが自分らしく暮らすまちづくり	11
	観点7 行政の運営や市政への市民参加について	12
	(3) 清須市のまちづくり全般についての意見や提案	14

1 アンケート調査について

(1)調査の目的

本調査は、清須市第3次総合計画の策定にあたって、地域の実情に精通した市政推進委員の皆様のご意見を聴取し、計画策定の資料とすることを目的として実施しました。

(2)調査の実施概要

調査の実施概要は次のとおりです。

区 分	内 容
対 象	市政推進委員 38 人
実施期間	令和5年11月27日（月）から12月11日（月）
実施方法	郵送配布・郵送回収
回収結果	回収数 29 件（回収率 76.3%）
調査項目	<p>①居住地 西枇杷島地区・清洲地区・新川地区・春日地区のいずれかの地域を選択。</p> <p>②清須市の施策について 次ページの7つの観点から、これから先10年を見通して、市が特に力を入れるべきだと思う施策を2つ選択。あわせてそれぞれの観点ごとに、回答した理由や、施策に関する意見を記入。</p> <p>③清須市のまちづくり全般について これから先10年を見通して、清須市のまちづくり全般についての意見や提案を記入。</p>

■施策についての設問の観点

観 点	施 策
(1) 市民が安全・安心に暮らすことができるまちづくり	1. 河川氾濫を防ぐための雨水貯留対策
	2. 浸水被害を防ぐための排水対策
	3. 地震等に備えた防災・減災対策
	4. 防犯対策
	5. 交通安全対策
	6. 消防力の確保
	7. 救急医療体制の確保
(2) 出産や子育てのしやすいまちづくり	1. 婚活や出産の支援
	2. 子育て支援
	3. 学校教育の充実
	4. ひとり親家庭への支援
	5. 青少年健全育成
(3) 誰もが健康でいきいきとくらすまちづくり	1. 健康づくり
	2. 地域福祉
	3. 高齢者福祉
	4. 障害者（児）福祉
	5. 生活保護・生活困窮者自立支援
(4) 便利で快適に暮らせるまちづくり	1. 市街地整備
	2. 道路・橋梁
	3. 上水道・下水道
	4. 公園・緑地
	5. 公共交通
	6. ごみの減量化・再資源化
	7. 環境保全
(5) 魅力に満ちた活力のあるまちづくり	1. 観光
	2. 商業・工業
	3. 農業
	4. 消費生活相談
(6) 文化活動やスポーツなどを通じて誰もが自分らしく暮らせるまちづくり	1. 生涯学習
	2. 文化・芸術活動
	3. 文化財保護
	4. スポーツ
	5. 国際交流
	6. 男女共同参画
(7) 行政の運営や市政への市民参加について	1. 市民参加・市民協働
	2. 広報・公聴
	3. 自治コミュニティ
	4. DX推進
	5. 行政改革
	6. 公共施設の適正管理

2 アンケート調査の結果

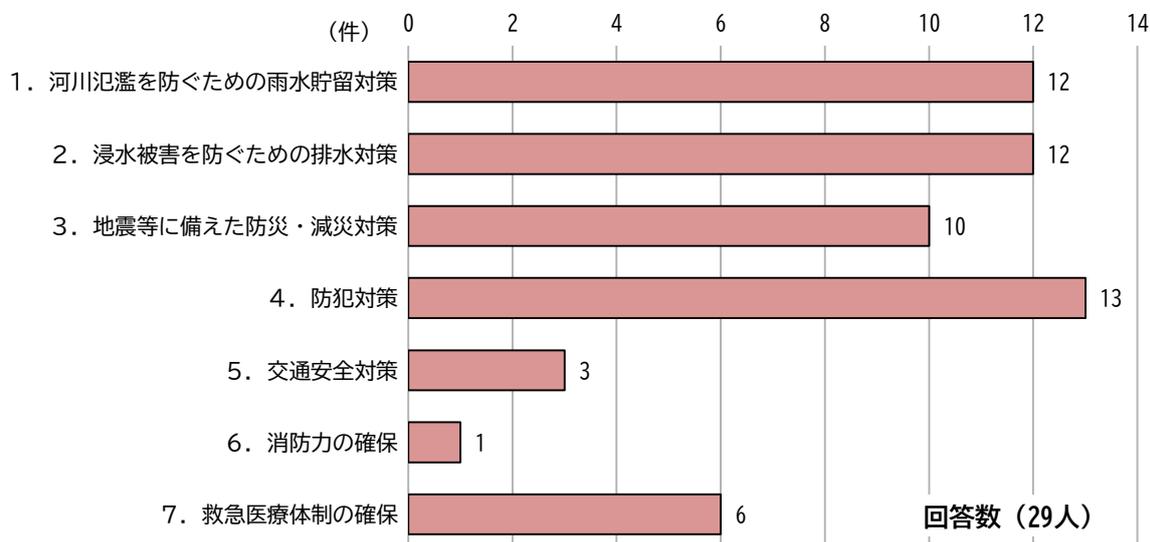
(1)居住地

西枇杷島地区	清洲地区	新川地区	春日地区	合計
11人 (37.9%)	8人 (27.6%)	7人 (24.1%)	3人 (10.3%)	29人 (100.0%)

(2)清須市の施策について

【観点1】 市民が安全・安心に暮らすことができるまちづくり

■市が特に力を入れるべきだと思う施策(1人2件まで選択)



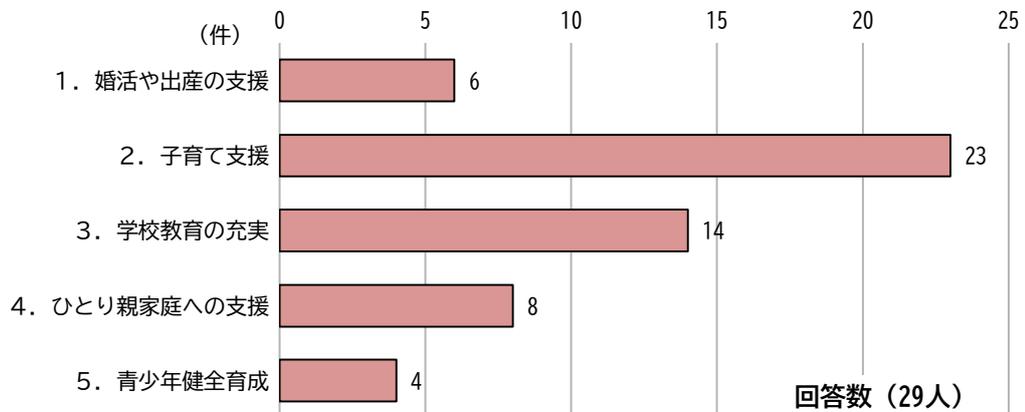
■関連する自由意見

意見内容
排水対策について
残念ながら、安全・安心が脅かされる事態が生じることを想定して対策を講じる必要があります。よく言われる「想定外」は通用しないと思います。
駐車場などには浸透性舗装の普及。
地域のほとんどが冠水区域となるため。
防災・減災対策について
現在の防災・減災対策がとれていない。 また、市民に啓発する機会も少ないように感じる。市総合防災訓練の内容や参加人数に課題あり。医師会・企業・NPO 団体等の参加がない。
自主防災について各ブロックがやっているが、11月に当ブロック及び他のブロックにも参加したものの、いまいち興味を持たないのが実際のところ。
自主防災会の活性化（定期的・継続的な活動実態を伴う）や地域防災リーダー養成のために市が積極的に地域に働きかけ、市民と共に課題解決する活動を求めたい。
町内会には避難行動要支援者名簿が渡されていますが、どのような支援が必要なのか、個別具体的な方法がよく分かりません。

意見内容
防犯対策・交通安全対策・救急医療について
私も高齢となり、気になるため。
地震対策も必要だが、安心して暮らせるような防犯対策が必要な気がする。 また、個人の医院はあるが大きな病院がなく、災害発生時には救急医療ができないのではないか。
現在、交通死亡事故は愛知県が1番多い。火事多発。予防対策をもっとして、事前に防ぐ啓発活動を行う。

【観点2】 出産や子育てのしやすいまちづくり

■市が特に力を入れるべきだと思う施策(1人2件まで選択)

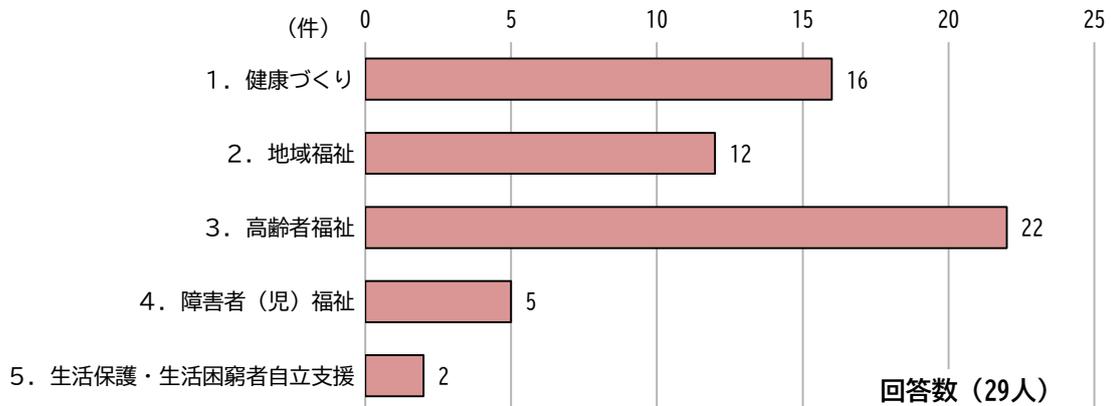


■関連する自由意見

意見内容
結婚や出産の支援について
結婚して子どもを産むことなくして子育てはできない。まず婚活支援が必要。
子育て支援について
町が老朽しているように思う。1年間にどのくらいの出産・学童がいるのかが不明であるので分かりづらい。
若者が集まる活気あるまちづくりを目指すには、子育て世代への何らかの経済的支援、悩みを気軽に相談できる場所（行政だけでなく同じ悩みを共有し合える仲間や居場所）が必要。
子育てについて気軽に相談できる等の支援策を必要とする世帯が増えていると感じている。
男女を問わず、ひとり親世帯への支援が必要と感じている。
保育園設備の充実化。私自身及び周囲からも要望が出ています。
布団の持ち帰り ⇒ ベビーコット導入 (保育園児を持つほぼ全ての家庭から同じ話を聞きます。)
タオルの持ち帰り ⇒ 保育園で準備、オムツ準備 ⇒ サブスクの導入。
学校教育の充実について
家庭及び学校生活での支援。
共働き世帯やひとり親世帯の子ども達の放課後の居場所づくりや充実した学習支援策を充実させる。
青少年健全育成について
義務教育が終わった後のサポート体制が全くできていないと思います。他の市町村では、行政の中にサポートする課があると聞いています。(ex. 北名古屋市)

【観点3】誰もが健康でいきいきとくらせるまちづくり

■市が特に力を入れるべきだと思う施策(1人2件まで選択)

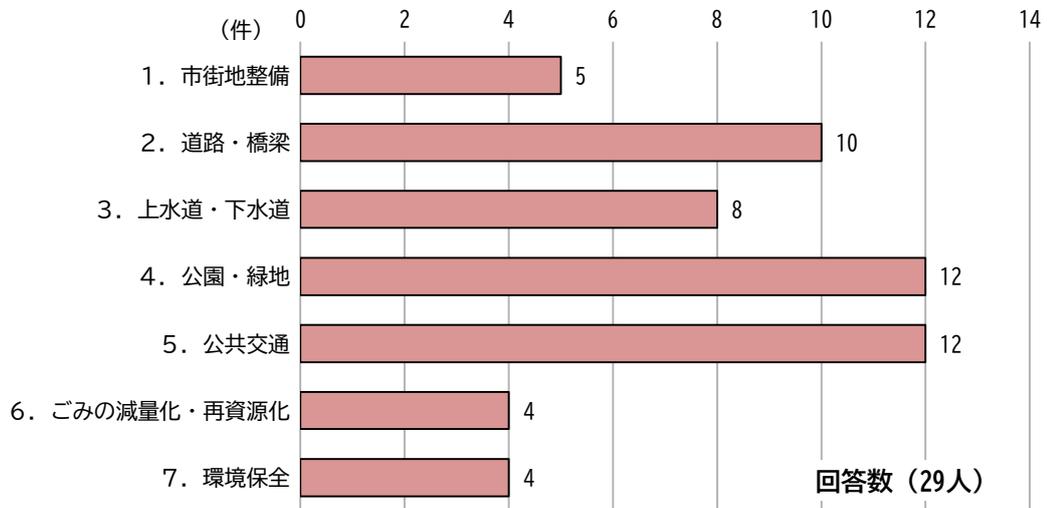


■関連する自由意見

意見内容
健康づくりについて
<p>体育大会、親善ソフトボール大会などの大きなイベントを行うのではなく、日々手軽にできる健康作りに資金や場所を提供して欲しい。</p> <p>2025年も間近な今、社会全体で健康寿命に着目する必要があると感じている。</p>
地域福祉について
<p>社協のボランティア団体の数が少なく、登録人数も少ない。歳をとっても他人ために動ける習慣を身に付ける必要がある。</p> <p>ボランティア活動に対する補助金を増やし活性化するように進める。</p> <p>NPO法人に登録するためのアシストを行い、その後、市のまちづくりに協力させる。</p> <p>地域福祉は行政機関だけでなく市民全員で支えるという仕組みづくりを期待する。</p> <p>特定の人(例えば民生児童委員)や自治会等に頼りすぎず、全ての市民で支え合うことが心豊かな社会の実現につながると思う。</p> <p>人口減少社会となった今、すべて公助ということは難しく、自助、共助の仕組みづくりを考えていく必要がある。</p>
高齢者福祉について
<p>福祉はもちろん、特に高齢者への支援、見守り等。</p> <p>当住宅は高齢化が進んでおり、将来的に地域、高齢関係に力を入れて欲しい。</p>

【観点4】 便利で快適に暮らせるまちづくり

■市が特に力を入れるべきだと思う施策(1人2件まで選択)



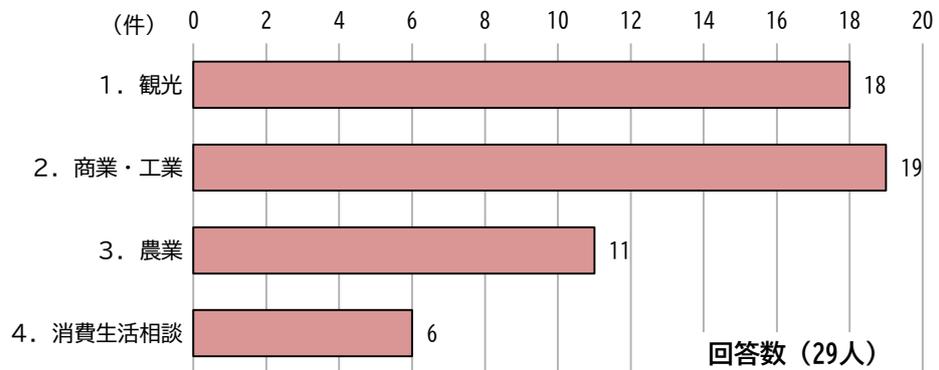
■関連する自由意見

意見内容
市街地整備について
地主が管理している田畑が減っている。適正に運用できるルールづくりも必要。無責任に放置されている。農薬による環境悪化が心配。
道路・橋梁について
春日地区は、側溝に蓋のないところが多く危険なため蓋をして欲しい。
五条川、新川、庄内川という3本の河川に囲まれていますので堤防の管理が大切だと思います。
日々の生活の「便利」において社会インフラの維持は不可欠。
市内の渋滞（通勤時間帯）の解消。
上水道・下水道について
下水道の普及に特に力を入れてください。

意見内容
公園・緑地について
公園内のトイレの整備が必要。入口がひとつで男女が使っているトイレの改造、新築をお願いしたい。
幼児用の遊具を増やして欲しい。
ビオトープ的な自然をいかした公園を作るのは難しいでしょうか。
一時避難場所に指定されている公園への防災倉庫の設置や避難設備の配置。
ある学校、公園などで鉄棒などの遊具が危険な状態であるのを見たが、直す様子がない。(1か月くらい放置)
公園のトイレが酷すぎます。
多くの市民が憩い集う場所としての公園や豊かな自然(河川整備)再生を更に推進する。ほっと一息つける場所があれば心が豊かになる。
水遊びができる公園が市内にないので設置いただきたい。
名古屋近郊だが庄内川を渡ると日常生活の中に自然を感じさせる空間があり(程良く田舎)、スローライフを楽しめるまちづくりを期待したい。
公共交通について
今は自分で運転できていますが、行きたくても行けなくなったり、健康のことも気になってくる歳でもあるので。
コミュニティバスの本数を増やし、我がブロックにも運行して欲しい。
コミュニティバスの路線拡大。
高齢者が増えていく社会では公共交通の役割も大きくなる。
ごみの減量化・再資源化
市民に分かりやすいゴミの分別の広報活動。
環境保全について
清洲地区では悪臭が少しも解決していない。
悪臭対策はほとんどできていない。

【観点5】 魅力に満ちた活力のあるまちづくり

■市が特に力を入れるべきだと思う施策(1人2件まで選択)

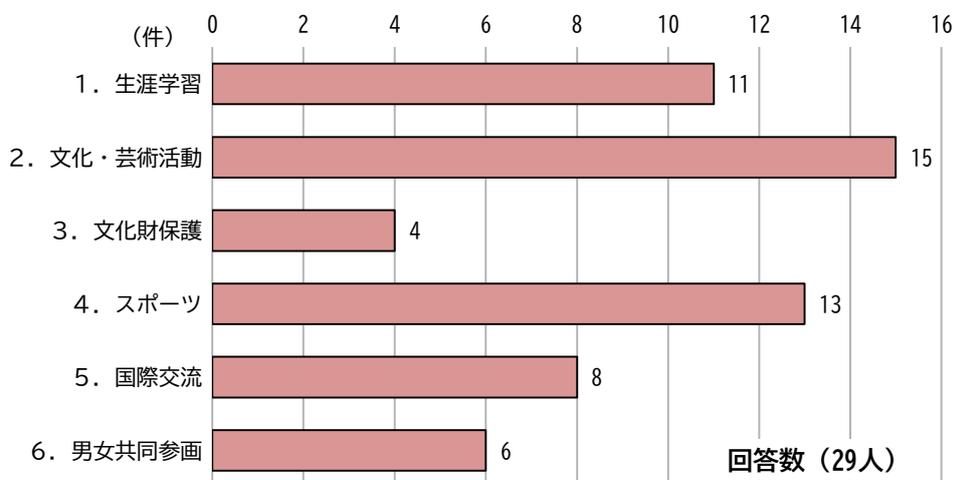


■関連する自由意見

意見内容
商業・工業について
大型商業施設の誘致（稲沢市のリーフウォーク以上の規模）
清須市を魅力ある市にするためには、個性のある、特色ある商店や企業を増やすことも大切だと思う。その情報発信も含め、単発でなく息の長い取組みが必要だと思う。
小規模の店等への支援。若い経営者への支援。
農業について
私個人としては市街化調整区域が工業地域に変わるのには反対です。今のまま野（田畑）と寺社の農村を残したい。
分野全般について
西枇杷島地区は、他地域より劣っているように感じる。
農業や観光にもっと力を入れてください。清須をガイドしている人間としてお客さんがっかりさせたくない。観光課や農業推進課をつくって商工業中心の産業課の解体を望みます。
社会に活力をもたらす事業分野として、今後の伸びしろを期待できるものを選択。

【観点6】 文化活動やスポーツなどを通じて誰もが自分らしく暮らせるまちづくり

■市が特に力を入れるべきだと思う施策(1人2件まで選択)

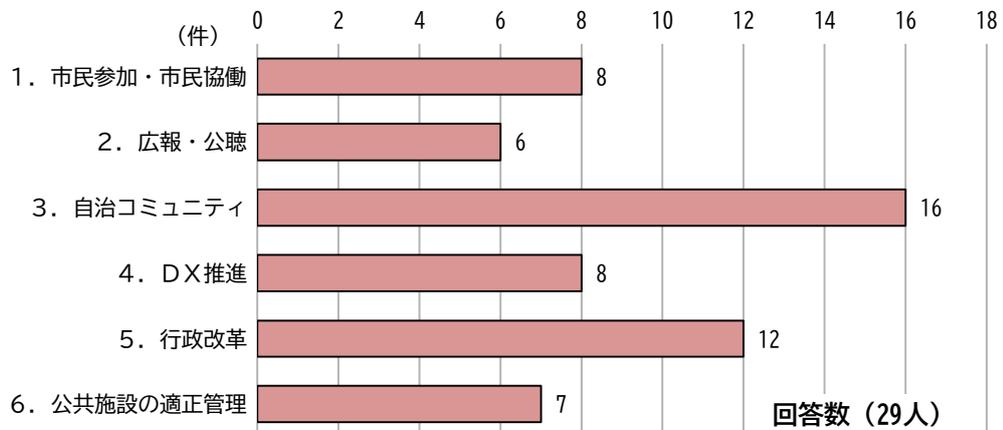


■関連する自由意見

意見内容
スポーツについて
市の管理する公園に健康遊具を設置し、高齢者に使ってもらおう。
旧町地区単位での体育祭やスポーツフェスティバルはやめるべき。参加したいと思わない。全く魅力がない。市長はにしびスポーツフェスティバルを視察していましたが、参加者がほとんどいない状況をどう思いましたか。改善の余地は全くないと思います。税金の無駄ですから来年度からは開催しないでください。
シティマラソンの開催を提案します。他の市町村からの参加者も見込める。清洲城を中心としたマラソンなら話題性もあると思う。
文化・芸術活動について
日々の生活を豊かにする（広い意味での）文化・芸術活動は大切と考えている。
国際交流について
海外のイベント紹介。
男女共同参画について
男女の差別のない催し。女性の長の登用。
一般論として男女共同参画社会の考え方は普及しているが、現実には進んでいない分野がまだまだある。
分野全般について
どれも大切であるが、活動できなくなる時期になる方が早くなってくるように思う。
合併によって既存の施設が遠くなってしまいました。移動の足の確保が必要に思います。
名古屋市近郊のベッドタウンとして、休日はリフレッシュできるような都市環境（例えば自然環境は川と水辺空間の整備、美術館の有効活用、スポーツ施設の充実）づくりにより、スローライフなまちづくりをする。（清須市へ帰って来てほっとするような居場所づくり）

【観点7】 行政の運営や市政への市民参加について

■市が特に力を入れるべきだと思う施策(1人2件まで選択)



■関連する自由意見

意見内容
市民参加・市民協働について
市に対しての反対意見でも話し合える機会を作って欲しい。 市政推進委員への説明も4月に1回あったきりで、これでは市と委員とのコミュニケーションなどできるはずがありません。
市民協働係を北館に移動させ、市民滞在型のスペースを確保。対話型のサービスを始めたり、毎日ミニイベント等を実施する。
市民がまちづくりに参加しやすい環境や多くのきっかけ（機会）をつくり、一人でも多くの市民に地方自治との関わりを持ってもらえるような仕組みづくりをするために、まずは人材マップとネットワーク構築が必要だと考える。
団体自治から市民ができることは市民自らが行う住民自治へ役割分担を変更（パラダイムシフト）するために、もっと市民の側へできることを期待する。
自治コミュニティについて
効率化も必要ですが、年齢と共に低下する能力の方がついていけないことも知って欲しいです。
自治コミュニティ 38ブロックをもっと集約すれば。
自主防災会をなくして自治会に集約する。
各自治会への分かりやすい活動支援。
地縁組織としての自治コミュニティの活性化のためには、うまくいっていない団体へ市から入り込み、何が問題なのかうまく活性化できている団体との違いや原因分析により、どうしたら活性化できるかの処方箋を作ることを地域住民と一緒にやってほしい。(住民に寄り添う)
自助、共助の仕組みづくりを考えるうえで、自治・コミュニティ活動の役割は大きいと考えている。

意見内容
DX 推進について
この項目については知識不足でよく分からない。本当はD X 推進が大切だろうがよく分からない。
市民が気軽に参加するためにも I T を活用した活動モデル作りが必要。(共稼ぎ、核家族化が進んでおり、一人ひとりに時間的余裕度が少ないので)
高齢者が増える社会でこそD X 推進が必要と考えている。
公共施設の適正管理について
旧町の施設の統廃合。

(3)清須市のまちづくり全般についての意見や提案

意見内容
防災について
「防災の街清須」をつくりませんか。来年、防災センターが出来るのを機会に災害に強い街づくりをしましょう。センターの機能を十分に理解していませんが、平時の際は市民や他市の誰もが防災・減災について学べる場所にしていく。それによって各家庭での防災対策がとられていくと思います。また、各地域（コミュニティ）で活動する自主防災組織が行っている防災訓練等の地域にマッチした訓練内容・規模にしていけば良いと思います。
防災センターに防災・減災活動をしている災害ボランティアコーディネーターを常駐させて、市民への啓発活動を行えば防災知識が向上する、他市の防災ボランティア・NPO との交流も取り入れるなど防災イベントも盛り上げていけば良い。（避難所運営・ハザードマップ作成）
小・中学生を対象にした啓発、障がい者・児を対象とした福祉避難所として市民への見える化の取組みも必要。防災・減災に若者の意見を十分に取り入れる。
市内の防災設備の総点検と改善。備蓄倉庫の環境整備、倉庫への出入・保管に障害物がないか。駐車禁止スペースが確保されているか。備蓄品は適正なものが適正な量確保されているか。それらは市民に見える化できているか。ごく当たり前のことですが、人命に関わることでありますのでよろしくお願いします。
環境について
河川環境美化（新川堤防）で割り当てが不平等であるので住民から公平にして欲しいと要望がある。（寺野⇄鍋片⇄助七）
資源ごみ分別収集日を毎月第3水曜日から日曜日（又は月曜日）に変更して欲しい。
行政との協働体制について
既存の団体（ex. 町内会、ブロック、自主防災、ブロック社協など）と市との話し合う場が全くない。協力し合う関係なのにできていない。毎年行事をこなしていけば良いという雰囲気になっています。
こんなアンケートをやってもどうせ集計だけで終わってしまう。やるからには意見を反映して欲しい。
依頼しても縦割行政のためなかなか進まないのので、“すぐやる課”を作ってください。
行政について、どうしても縦割りになりがちです。市のまちづくりを進めるために、各係、各課、各部の連携をとって総合的に考える必要がある。

意見内容
<p>地域コミュニティについて</p>
<p>町内会組織がつぶれていく現状を認識して欲しい。役員のみならず手が足りない。なっても現役世代で日々の活動が十分にできない状況です。</p> <p>このアンケート内にもそんな危機的状況を踏まえた質問が出てこない。失礼な言い方ですが「のんきなもんだ」という感想です。10年後にどれだけの町内会が残っているか想像して施策を考えていただきたい。</p>
<p>提出書類で「市長が必要と認める書類」とあるが何か分からない。最初からいらぬなら書かないで欲しい。毎回確認するのが面倒。もっと具体的に記載してください。</p>
<p>今年の体育祭中止の連絡が当日の朝にありましたが、数日前から雨天と分かっていたこと。もっと早くから中止指示をして欲しかった。</p>
<p>昔のような村落共同体が機能せず、町内会や自治会の役員のみならず手が足りないのが現状である。このあたりのことも考えに入れて行政を進めていただきたい。</p> <p>市役所⇒市政推進委員という一方通行だけでは次第に処理できなくなっていく。</p>
<p>まちづくり全般について</p>
<p>人口減少社会が将来的に続く見通しの中、日本社会全体で行政の財政的な制約が出てくる懸念があり、高度成長時代から続いてきた住民自治から団体自治へシフトすることによる公共サービスの集約化、効率化、拡充は曲がり角に来ている。</p> <p>社会構造が大家族から核家族へ、また、共働き世帯が多くなり変化している中、国民の意識面でも海外へ出て活躍を目指したり、勤労者として働くことを第一で生活を送ってきた明治～昭和高度成長時代に生きてきた人々に対し、現代はワークライフバランスを考え自分らしく生きていこうとする人々がZ世代を中心に広がりを見せている。</p> <p>こういう人々は家族や友人等、周りにいる人達と仲良く平和で平凡に暮らしたいと思っている人が多く、自分が住んでいる街が少しでも良くなっていく活動に興味がある。関わることで何らかのアウトプットがあれば自己肯定感や満足度が上がり、心豊かになる（＝幸福になる）。そういった人々をいかに地方自治に関わらせていくかが重要で、色々なネットワークが重層的に多角的に繋がれば繋がるほど、街は魅力あるものになる。</p>
<p>公共セクター（市や学校、民生児童委員等、特別地方公務員等）の役割のみならず、市民セクター（自治会や市の助成団体等の地縁団体やNPO等テーマ型ボランティア団体）や企業セクター（企業や商工会、農協等）の役割も含めて、今の時代に合った各々の役割を再定義し、神輿を全員で担ぐ（広く薄く少しずつ担ぐ）地方自治を目指すことが魅力あるまちにつながる。</p> <p>いかに若い世代の人々を社会参加させるか、仕組みやきっかけ作りが大切。</p>

